

今月のテーマ： 梅雨

梅雨とは、季節が春から夏に移る期間に現れる雨の多い時期のことで、北海道地方を除く日本各地で見られる季節現象です。

季節が春から夏に移る頃になると、太平洋高気圧の勢力が次第に強まり、太平洋高気圧とオホーツク海高気圧との間に梅雨前線が形成され、6～7月頃、図1のように本州付近に東西にのびて停滞しています。梅雨後期になると、オホーツク海高気圧の衰弱と共に太平洋高気圧が強まり、梅雨前線を北上させます。こうして南側の地域から梅雨が明けて、季節は夏へと変わっていきます。

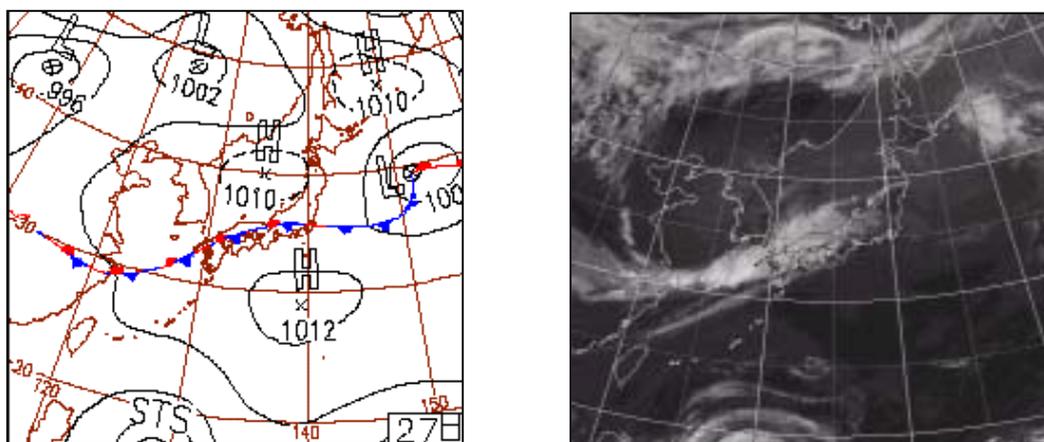


図1 2004年6月27日9時の地上天気図(左)と赤外衛星画像(右)
本州上に梅雨前線が停滞し、九州北部は大雨が続く。
日本の南には太平洋高気圧、北日本付近には冷たいオホーツク海高気圧が見られる。

九州北部地方(山口県を含む)は、平年ですと、6月5日頃に梅雨入りし、7月18日頃に梅雨明けします。今年はずでに奄美地方が5月9日頃に梅雨入りしています。

表1 梅雨入り・明けの時期

地域名	梅雨入り		梅雨明け	
	昨年 (2004年)	平年 (1971-2000年)	昨年 (2004年)	平年 (1971-2000年)
九州北部地方	5月29日頃	6月5日頃	7月11日頃	7月18日頃
九州南部	5月29日頃	5月29日頃	7月11日頃	7月13日頃
奄美地方	5月14日頃	5月10日頃	6月24日頃	6月28日頃

図2の梅雨入り、明けの日の経年変化に注目すると、近年は、梅雨入りは平年並か早い傾向があります。また、梅雨明けは早い年と遅い年の差が大きい傾向があり、1994年や1995年は7月上旬に梅雨が明けましたが、1993年に至っては冷夏のため梅雨明けが大幅に遅れ、結果として梅雨明けが特定できませんでした。

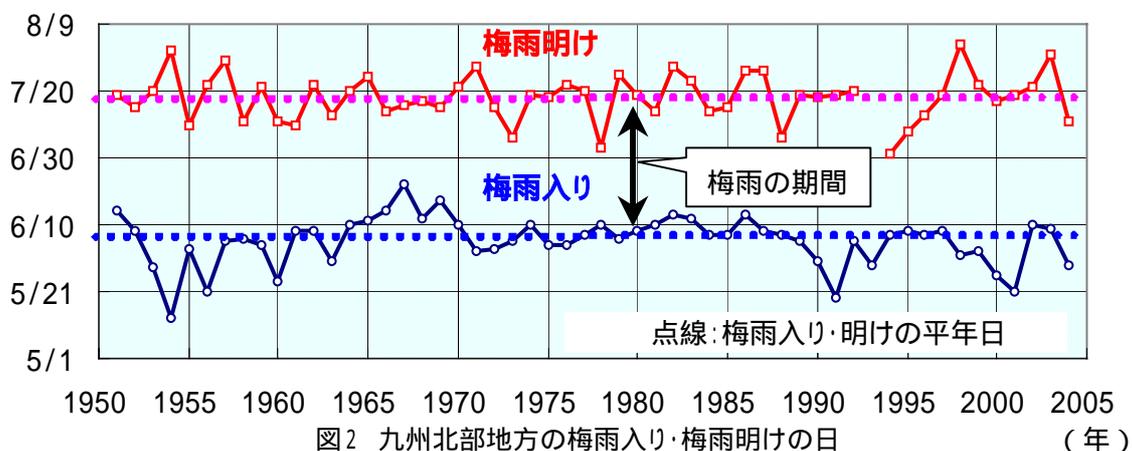
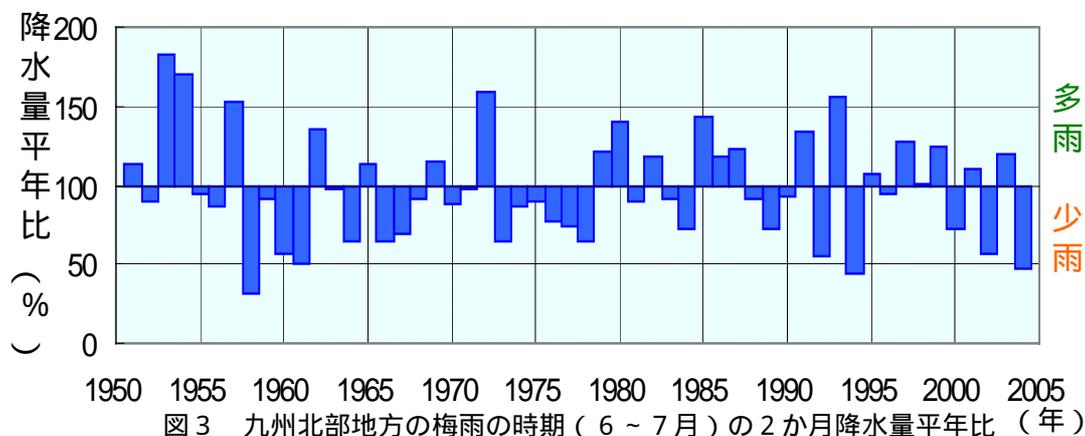


図3の梅雨の時期(6～7月)の降水量の経年変化を見ると、1980年代までは、多雨の年あるいは少雨の年が数年ずつ続く傾向がありましたが、1990年代からはそのような傾向は見られず、年々の変動が大きくなっています。



梅雨後半になると、梅雨前線に南からの暖かく湿った空気が強く流れ込んで、前線の活動が活発化し、大雨が起こりやすくなります。气象台や測候所が発表する注意報・警報や気象情報に注意して、崖崩れや洪水などの災害に備えましょう。